

「国際地域イノベーター人材養成プログラム」 への期待

函館日本語教育研究会
会長 高橋かつ子

貴大学における「国際地域イノベーター人材養成プログラム」開始に当たって、長年地域日本語学習支援活動の現場に関わっている者として、このプログラムに期待することを述べさせていただきます。

函館日本語教育研究会(Japanese Teaching Society略称JTS)は、1989年に外国人への日本語教育の研究と実践を目的に創立された民間団体です。私達が1996年に開始した「日本語サロン」という日本語学習支援ボランティア活動は、今年で25年目を迎え、外国人のための日本語学習支援のみならず、彼らの居場所、または市民との交流の場としての役割も果たしてまいりました。1999年からは、函館市の委託により、「函館市日本語教室」の運営にも関わり、当初2クラスでスタートした教室も、近年学習者の増加で、現在は週7クラスを開講している状況です。私自身は、「散在地域における日本語支援者のあり方とその養成」を研究テーマにし、2010年に東北大学の修士課程を修了し、2018年度よりJTS会長を務めているところです。さて、貴大学の「日本語学習支援者」を養成するプログラムには、いくつかの点で大いに期待しております。

一つ目は、即戦力のある日本語学習支援者の数的確保への貢献です。

ここ数年、JTSの活動である「日本語教室」(教室型)と、「日本語サロン」(地域型個人対応)には、学習者が急増しております。しかし、その活動を支えるいわゆる日本語教師と日本語学

習支援者の数は充分ではありません。外国人の手助けをしたいという熱意で入会する希望者がいることはいるのですが、日本語学習支援の知識も経験もない人がほとんどです。

JTSの様々な活動をしながら、これら新入会員に手厚く養成プログラムを組むのは困難で、現状としては、数回の学習会の実施だけで、OJTですぐさま学習者相手に活動を開始してもらえない状況にあります。貴大学での日本語学習支援者養成プログラムは、質の高い即戦力となる支援者の増加に貢献するものと期待しています。願わくば、このプログラムが、学生だけでなく一般にも公開・開講され、外国人との共生社会推進の裾野を広げることになれば幸いです。

二つ目は、貴大学のプログラムにおけるカリキュラムが、求められている日本語学習支援者像に合致しているという点です。日本語学習支援者養成はややもすれば、日本語の指導技術に特化されやすいのですが、貴大学のプログラムは多文化共生の観点が多く取り入れられ、優れていると思います。日本語学習支援者に求められるのは、上下関係になりがちな「教える」ということではなく、対等な関係で相手を尊重し「共に学び合う」という姿勢です。彼らの文化的背景や人権を尊重する基本的な姿勢が何よりも大事だと、長年の活動を通じて実感しています。もちろん、日本語学習支援者としての日本語の基本的知識と指導技術の習得、実習を重ねて学習者の状況を体感することも必要不可欠

ではありません。

最後に、地方行政と民間団体、日本語教師と日本語学習支援者、それぞれの役割の分担と協働などを含め、地域のニーズにあわせた日本語学習支援体制をどうするべきかという課題に向けても、貴大学のプログラムが提案と実践に発展できたら幸いです。

最近では、留学生や技能実習生だけでなく、就労者や就労を希望する日本人配偶者、外国児童など、多様なニーズのある人達が教室やサロンに来ています。このような多様なニーズに私達、民間団体もどう対応すべきか、その指針と対策を模索し続けているところです。行政、教育機関、民間団体など関係者が連携を組み、同じ方向を見据えて行動できる日が来ることを願っています。

今回の貴大学のプログラムは、関係機関を繋ぎ、結びつけるための大きな一歩となることでしょう。大いに期待しております。